

「被爆三世ザクロの木」を植樹



植樹をする齋藤学長(左)と榊氏

5月27日、経済学部の卒業生で、自らも被爆者である榊安彦氏（長崎市在住）から寄贈された「被爆三世ザクロの木」が、環境科学部中庭に齋藤学長と榊氏により植樹されました。

爆心地から約1.5kmの家野町にあった榊氏の自宅に植えられていたザクロの木は、原爆投下により枯れたかに見えたものの、翌年には大きな花実をつけました。その後、榊氏は現在の自宅に転居される際、このザクロの木を挿し木して二代目を育て、そのザクロの木の種から育てた「三世」を本学に寄贈されました。

植樹式で齋藤学長は「復興と再生の象徴として、多くの学生が集まるこの場所で花を咲かせてほしい」と挨拶し、榊氏は「被爆の生き証人として、平和への取組に役立ててほしい」と話されました。

本学では、附属病院歯科系玄関前の「被爆したクスノキ」、教育学部中庭の「被爆柿の木二世」に次いで、三つ目の平和を祈念する樹木となります。

(総務部総務課)